

令和7年度 第2回 運行管理高度化ワーキンググループ 議事概要

【日時】令和7年10月15日（金）15：00～17：00

【出席者（委員）】伊藤委員、今井委員、上田委員、大橋委員、小田切委員、小野委員、
加藤委員、齋藤委員、吉村委員（50音順）

【出席者（オブザーバー）】星野様（代理：武田様）

議事次第に沿って事務局から資料を説明後、意見交換が行われた。

なお、委員から出された主な意見は以下の通り。

同一事業者内遠隔点呼及び業務後自動点呼の実態調査について

- 本調査の目的の一つは、遠隔点呼制度や自動点呼制度の改善点を把握することである。ヒアリングでは、運転者、運行管理者、経営者の立場ごとの意見の違いや、導入による安全確保への影響、困り事について、事業者の所感を調査してほしい。
- 遠隔点呼や自動点呼では、点呼機器が提示する流れに沿って点呼を行うため、点呼項目の漏れを防止できる。対面点呼と比較した安全性向上の効果についてもヒアリングで聴取してほしい。
- 遠隔点呼や自動点呼の導入による運行管理者の労働時間や選任数の削減効果についても調査してほしい。
- 業態や事業規模ごとに実態は異なると考えられるので、詳しく分析することが重要である。
- 遠隔点呼や自動点呼は、営業所・車庫だけでなく、事業用自動車内等でも実施できる。自家用車活用事業の事例なども含め、営業所・車庫以外での活用実態を把握してほしい。
- （配布資料によると）導入コストが高いという意見が未実施の理由としてあげられている。事業者の規模・業態別に導入メリットがコストを上回る条件を具体的に示せば、導入検討時の参考となるのではないか。また、制度の認知拡大と利用者の増加により、機器コストの低減が期待される。パンフレットの作成に加えて、制度概要や好事例を様々なセミナー等で紹介し、周知を行ってほしい。

運行管理業務の一元化における運行管理者選任数の考え方について

- 運行管理業務を一元化する場合でも、安全確保のため、非常時には被集約営業所へ運行管理者が駆け付けられる体制が必要だろう。実証実験では、運行管理業務の一元化において営業所間の距離や到着にかかる時間に関する要件の必要性を検証してほしい。
- 法令上の運行管理者選任数を超えて選任している事業者が多い中、一元化が運

行管理者の業務負担軽減にどう寄与するのか整理してほしい。

- 一元化による管理対象車両数の増加が運行管理者に心理的負担を与える可能性についてヒアリングしてほしい。心理的負担の増加によりミスが生じる頻度が上がるなど、安全性の低下につながる場合、何らかの要件を設ける必要性を検討することが求められる。

事業者を跨いだ運行管理業務の一元化について

- 事業者は、選任が必要な運行管理者の数によって、異なるニーズを持っているだろう。
- 異なる事業者に運行管理業務を委託した場合に法令上の運行管理者選任数が削減される、といったような措置がとられないと、業務委託に追加コストを支払ってまで一元化を行うニーズは限定的なのではないか。
- 本検討の状況について自動車事故対策機構とも情報共有を行って検討を進めると良いのではないか。
- 運行管理業務の一元化についてはすべての業務をパッケージで委託することを想定しているが、アンケートの結果、委託ニーズのある業務とそうでない業務があることが分かった。例えば適性診断の受診指導などは専門組織に委託を希望することも想定される。仮に業務の内容によって委託を希望する先が異なる場合、どのような仕組みとするか今後の論点となり得る。

以上